

あ
い
の**Vol.8**

2011.7月発行

はじめに

当院では7月1日より京都府立医科大学消化器内科がん免疫細胞制御学講座の協力のもと、がん免疫療法を開始しました。タカラバイオ株式会社から細胞培養の技術支援を受けながら、がん免疫療法を希望されている患者様に適切な治療を提供してまいります。

- Contents**
- ・がん免疫療法について
 - ・看護実習について
 - ・ダイバーショナルセラピー
 - ・あいのまちの保健室
 - ・新任医師のご紹介

第4のがん治療



内科医 坂井宏実

この度、本年7月1日より、当院でがんに対する治療として温熱療法、がん免疫療法を開始させていただくこととなりました。ところで、温熱治療、がん免疫療法とはいったいどのようなものなのでしょうか。

一般的にがんの治療法は、手術、放射線療法、化学療法（抗がん剤等）が3大治療法と言われています。しかし、患者様の状態によって、副作用などによりこれらの治療が受けられない場合や治療効果が不十分な場合もあり、新たな治療方法が求められていました。

そこで第4の治療として温熱療法、がん免疫細胞療法が、近年新たな治療法として着目されるようになりました。温熱療法は、がん細胞が正常細胞に比べて熱に弱いことを利用した治療法で、体の中のがんの部分を42℃くらいまで温め、がん細胞だけを死滅させます。化学療法、放射線療法、さらにがん免疫療法と併用することで相乗効果を得ることもでき、副作用が少なく、通院治療で行うことができ保険適用が可能です。がん免疫細胞療法は、ひとの体に備わっている免疫力を利用した治療法です。

ひとの体の中では1日に数千個のがん細胞が自然発生しています。健康な時はこの免疫力が自然発生するがん細胞を死滅させ、がんの発生を抑えますが、加齢等により免疫力が弱まると共にかんが発生すると考えられています。

この免疫力を支えているのは、リンパ球を主とする血液中に含まれている免疫細胞です。血液を採取しリンパ球を分離した後、専用の培養施設内でリンパ球を活性化させ数百倍に増やして強化をしたのち、体に戻して治療するのががん免疫細胞療法です。患者様ご自身の免疫細胞を使った治療法なので、副作用が非常に少なく通院による治療が可

能です。また、手術、放射線療法、化学療法、温熱療法などと組み合わせることにより、今まで以上にがんに対する高い治療効果が得られています。当院では、京都府立医科大学消化器内科がん免疫細胞制御学講座のバックアップのもと、より効果が高いというデータが得られたレトロネクチン[®]誘導Tリンパ球療法という免疫療法を行います。



この治療は、ナイーブTリンパ球を増やして体内に戻す治療です。今まで一般的にがん免疫細胞療法としては、活性化リンパ球療法（CD3-LAK）、ナチュラルキラー（NK）細胞療法、細胞傷害性Tリンパ球（CTL）療法、樹状細胞（DC）ワクチン療法などが行われていました。しかし、がん研究の進歩とともに、リンパ球（特にTリンパ球）の研究が大きく進展し、近年そのTリンパ球のなかでもナイーブTリンパ球の重要性が認識され、がん免疫細胞療法において重要な役割を果たしていると考えられるようになってきています。ナイーブTリンパ球は、体外の試験管での試験ではがん細胞を傷害する作用が弱い一方、体内に戻した時に強い抗腫瘍活性を示すことが、明らかにされています。これは、ナイーブTリンパ球は体内での寿命が長く、体内に移入されると、がんの近くのリンパ節でがん細胞を攻撃するための教育をされ、その教育されたTリンパ球が増殖し、結果的に多数のがん細胞を攻撃する細胞傷害性Tリンパ球ががん近辺で作られるためと考えられています。このように働くナイーブTリンパ球を体外で増やし体内に戻すことで、より強い抗腫瘍効果が得られるように治療を行ってまいります。

レトロネクチン[®]誘導Tリンパ球療法



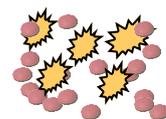
血液から単核球を分離し、レトロネクチン[®]・抗CD3モノクローナル抗体・インターロイキン2存在下で培養



ナイーブTリンパ球を多く含むリンパ球が数百倍に増殖



リンパ節内で抗原提示細胞と出会い、がん細胞を認識する為の能力を獲得しながら体内で増殖



がん細胞を攻撃

治療の流れ

藍野病院でがん免疫療法を希望される患者様には、まず診察日を予約して頂きます。受診された際には、患者様ご本人またはご家族の方に藍野病院の「がん免疫療法」について、詳しく説明した後、治療開始日に患者様ご本人に来院して頂きます。その際に、必要な検査を受けていただいた後、採血を行います。レトロネクチン[®]誘導Tリンパ球療法は採血後、定期的（2週間ごと）に来院して頂き、増殖させたリンパ球の投与を6回（3ヶ月）繰り返します。治療中は、治療効果等を確認するため、血液検査、MRI、CT検査などを随時受けていただきます。

診察予約

来院・治療法の説明

採血・検査

細胞投与

▼レトロネクチン[®]誘導Tリンパ球療法のスケジュール



詳細については 代表 072-627-7611 にお電話頂き、がん免疫療法コーディネーターにお問い合わせください。

看護部 だより

近年の臨床看護の現場は、医療の高度化、患者の高齢化・重症化、平均在院日数の短縮等により、看護業務が多様化・複雑化しており、新人看護職員に対しても求められる事柄が増え続けています。



反面、看護師になるための学習途上にある学生が行う看護技術実習の範囲や機会は限定されるという矛盾もおこっています。そのような中、当院では述べグループ数250、週数500もの関連学校の実習を受け入れています。また、直接患者さんと接する機会をできるだけ多く持ち、生きたコミュニケーション技術を培ってもらうために、藍野高校の生徒には、体験学習や、希望者にはアルバイトの受け入れも行っています。『誠意ある温かい明るい対応』ができる看護師を、『学校 — 病院間』で協働育成をしています。



毎日放送『ちちんぷいぷい』の「学校へ行こう」というコーナーで藍野高校が紹介されました（5月30日放送）
吉本興業の人気者 たむらけんじさんが取材に来られ、藍野高校の寮生活や、授業風景、学校の雰囲気などを楽しく伝えていただきました。早くから進路をきめて、看護師になるという夢に向かい、日々がんばっている生徒達にとって最高の思い出ができました。

半数以上が寮生であり、親元を離れがんばっている看護師の卵たちです。

ダイバーショナルセラピー No7 ～園芸療法について～

前回では園芸療法の目的をご説明させていただきましたが、実際当院で園芸療法を受けて頂いている患者さまの様子をご紹介します。

*70才男性・もともと積極的に他者へ話しかけることが苦手であったが、園芸療法は開設当初から継続参加をしており、畑の様子を気にかけてたり観察を行うなどして、新しい苗の事や水やりの事など自分からスタッフへ声掛けをされるようになる。

*90才女性・日中傾眠状態で過ごすことが多いが、昔は畑をご自分でされていたとの事で、園芸療法参加時には笑顔が見られ、昔の事を思い出すなどの様子が見られる。

他の参加者の方も、畑仕事に携わっていた方は植物の成長状態から『うね』の盛り方などをスタッフへ指導してくださり、草むしりをする事でやりがいを感じて参加されている方もいることから、園芸療法が回想法の一種にもなり、やりがいを感じることで精神面の安定が得られている様子が受け取れます。今後は、園芸療法以外の時も患者さまの良い状態を持続させる事や収穫後の野菜等で料理をする機会を増やす事、畑作業以外の園芸療法を増やす事などが出来るようにマンパワーの充足をさせる事も課題となっています。

お問い合わせ

総合受付

TEL:072-627-7611 (代)

FAX:072-627-3627

入院のご相談は
「地域医療連携室」まで

編集委員一同

季刊誌「あいの」を最後までご覧いただき、ありがとうございます。今回は当院が新しく取り組む「がん免疫細胞療法」について特集を組みました。大阪では当院が初めて行う新たな治療法です。この治療法に関してのお問い合わせ先は紙面に記載してありますので、お気軽にお問い合わせください。お問い合わせ先は紙面に記載してありますので、お気軽にお問い合わせください。お問い合わせ先は紙面に記載してありますので、お気軽にお問い合わせください。お問い合わせ先は紙面に記載してありますので、お気軽にお問い合わせください。